

## 第55回安達峰一郎記念賞贈賞式の開催

国際法研究の優れた業績を顕彰する第55回安達峰一郎記念賞の贈賞式が2022年11月11日、東京・一ツ橋の如水会館で開催されました。受賞2作品と受賞者は次の通りです。

『Conventionality Control of Domestic Law: Constitutionalised International Adjudication and Internationalised Constitutional Adjudication (国内法の条約適合性統制—立憲化された国際裁判と国際化された憲法裁判)』Nomos

根岸陽太・西南学院大学法学部准教授

『多元主義の国際法—国連法と人権法の交錯』信山社

加藤陽・近畿大学法学部准教授

根岸氏は「国際法上の人権を侵害された人々はどのように救済されるのか、というシンプルな問いから出発し、国際法と憲法が並んで上底を組み、国民国家より人間個人を中心に置く台形モデルに到達しました。本書の原点である被害者の声、そして個人に最も有益な法解釈の必要性に立ち返り、今後も身近で小さな場所に生きる人々のために国際法を研究していきたいと思います」と挨拶しました。

加藤氏は「コロナ禍の下、研究への集中を切らしてはいけないと取り組みました。2006年に記念国際法奨学生として奨学金も受け、深い縁を感じています。本書では国連安保理の制裁と人権保障の対立という特徴的な分野を扱いました。法秩序の間の対立では妥協をめざす政治的調整が重要です。隣接分野の理論を取り込みながら包括的な研究に発展させていけたら、と考えます」と抱負を語りました。



安達峰一郎のメダイヨンと記念撮影する受賞者の加藤陽氏（前列左）と根岸陽太氏（同右）。後列左から薬師寺公夫・立命館大学名誉教授、柳原正治・放送大学特任荣誉教授、鈴木正貢・財団理事長、小和田恆・第22代国際司法裁判所所長、植木俊哉・国際法学会代表理事。